

評価対象			
事務事業名	芝浦港南地区保育園地域開放	開始年度	9 年度
所属	芝浦港南地区総合支所管理課施設運営担当	種別	—
所管課長	芝浦港南地区総合支所管理課長		
基本政策	5 明日の港区を支える子どもたちを育む		
政策名	(19) 就学前児童ケアサービスを総合的に推進する。		
施策名	④ 子育て支援サービスの充実		

事業概要	
事業の目的	家庭において子育てを行う保護者に区立保育園の持つ力を提供し、楽しく子育てができるように支援するとともに、地域との交流関係を拓けることを目的として実施します。
事業の対象	家庭において子育てを行う保護者と就学前の子ども
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・親（保護者）子で集まれる場、安全に遊べる場を提供します。 ・参加者同士の親睦・交流の機会を援助します。 ・保育園の職員が助言・指導を行い、育児情報を提供するほか、必要に応じて個別相談を受けます。 ・各保育園で、実施日・実施内容は異なります。 【例】 <ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の保育室・園庭等で保育園児と一緒に、親子で遊ぶ ・遊戯室等で親（保護者）同士の交流・相談 ・職員による育児知識の講和・遊び等の実技指導 ・給食の試食、栄養指導、園行事への参加
根拠法令等	児童福祉法、港区地域在宅子育て支援制度事業実施要綱

【ステップ1】①事業継続の必要性に係る評価									
開始当時の背景・これまでの経緯	核家族化、少子化が進んでいる家庭や地域において、子育てに不安を持つ保護者が多くなっていることから、地域に開かれた保育園として、保育園の持つ力を提供し、楽しく子育てすることが出来るよう支援するとともに、地域の保護者同士のつながりを深めるため、平成9年度に事業を開始しました。 開始当初は、保育園単独で事業を実施していましたが、現在は参加者を増やすため、保健福祉係の子育てあんしんプロジェクトとの共同開催を行っています。								
評価	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>A 高い</td> <td>B どちらともいえない</td> <td>C 低い</td> </tr> </table>		A 高い	B どちらともいえない	C 低い				
	A 高い	B どちらともいえない	C 低い						
評価の着眼点	<table border="1"> <tr> <td>公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)	◎			今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)	◎		
公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)	◎								
今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)	◎								
①事業継続の必要性	◎								
①事業継続の必要性評価の理由	(歴史的役割を終えていないか、区の関与は必要か、代替可能な事業はないか) 保育園を地域開放し、子育て世代の育児に関する不安や孤立を防止し、保護者同士の交流の場を提供することは、区として重要な役割です。一方で、子ども中高生プラザや子育てひろばなど子育て支援施設が増えているため、今後も各施設との連携や役割分担に取り組んでいきます。								

【ステップ2】②事業の効果性・③事業の効率性に係る評価

②事業の効果性に係る評価

事業の成果	指標1	開催回数（回）			指標2	延べ参加人数（人）			指標3			
		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率
	平成29年度	22	21	95.5%	平成29年度	703	484	68.8%	平成29年度			
	平成30年度	19	19	100.0%	平成30年度	643	491	76.4%	平成30年度			
	令和元年度	19	—	—	令和元年度	534	—	—	令和元年度		—	—
指標から見た事業の成果	子ども中高生プラザや子育てひろばなど、子育て中の親子が利用できる施設が充実してきたことで、参加人数は横ばい傾向です。離乳食試食会の実施や保健福祉係の子育てあんしんプロジェクトと合同で実施することで、参加人数が安定している現状です。											
評価	A 高い			B どちらともいえない						C 低い		
②事業の効果性	◎											
②事業の効果性評価の理由	（事業の目的を実現できているか、区民のニーズに応える手段として妥当か）定期的に事業を実施することで、子育て世代に対する育児に関する不安の解消や保護者同士の交流を図っています。保育の専門的な知識を有する保育士や子育てあんしんプロジェクトの専門職が育児に関する支援や相談を行うことで、事業を効果的に実施できています。											

③事業の効率性に係る評価

予算状況の内訳（千円）											決算状況（千円）	
事業費の状況	年度	当初予算額	一般財源割合	一般財源	国庫支出金	都支出金	その他	流用	補正予算	予算現額	決算額	執行率
平成30年度	65	100%	65	0	0	0	0	0	65	36	55%	
令和元年度	112	100%	112	0	0	0	—	—	—	—	—	
事業費から見た事業の状況	本事業では、園で作る離乳食、乳児食提供や通常使用している遊具や玩具、事務用品を活用しているため、支出経費は必要最低限となっています。											
評価	A 高い			B どちらともいえない						C 低い		
③事業の効率性	◎											
③事業の効率性評価の理由	（費用対効果や受益者負担等の観点から、コストに見合う成果が得られているか）保育園の人的・物的資源を活用する事業のため、必要最低限の経費で運営できることによる効果的です。											

【ステップ3】
総合評価

○ 拡充 ● 継続 ○ 改善 ○ 統合 ○ 廃止

本事業に係る所管課の意見	本事業は、区立保育園を地域に開放することで、子育て世代の育児に関する不安の解消や孤立化を 방지、地域の交流の場としての役割を担っています。また、既存の施設と保育園職員の専門知識を活用し、最小限の経費で事業を実施できているため、事業は継続します。一方、本事業の開始当初と比べて、子ども中高生プラザや子育てひろば等の子育て支援施設が充実しているため、引き続き、他の各施設との連携や役割分担に取り組んでいきます。
総合評価に係る具体的な理由（根拠）と来年度の実施内容（又は廃止後の対応）を記載します。 ・「拡充」：レベルアップ ・「継続」：現状維持 ・「改善」：対象範囲、事業規模、実施方法等の変更（一部廃止、縮小を含む） ・「統合」：他事業と統合	

評価対象

事務事業名	芝浦港南地区区長と区政を語る会	開始年度	平成 18 年度
所属	芝浦港南地区総合支所管理課管理係	種別	—
所管課長	芝浦港南地区総合支所管理課長		
基本政策	Ⅳ 実現をめざして		
政策名	(29) 参画と協働により互いの顔が見える区政運営を推進する		
施策名	② 区民参画の推進		

事業概要

事業の目的	区政に関する区民の需要を的確に把握するため、区民各層から意見・提案を聴取し、区政への反映を図ることにより、区民参加による区政運営を推進します。
事業の対象	区内在住・在勤・在学者
事業の概要	<p>区長が区民と懇談を行い、区政に関する意見を聴取します。</p> <p>【開催時期】 各総合支所で年1回 【開催場所】 総合支所内会議室、区民協働スペースなど 【参加者】 公募による区民（在勤・在学含む）、区長、総合支所の管理職など 【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度「地域ぐるみの子育ての推進について」 ・平成25年度「地元を知って好きになるう ～みんなでつくる芝浦港南地区～」 ・平成26年度「これからの芝浦港南地区について」 ・平成27年度「にぎわいある芝浦港南地区～魅力ある水辺を生かして～」 ・平成28年度「30年後の芝浦港南地区について語ろう！」 ・平成29年度「住み続けたいまち～個々の暮らしを支える地域づくり～」 ・平成30年度「みんなでつくる芝浦港南地区～地域コミュニティ意識～」
根拠法令等	港区集団広聴実施要綱

【ステップ1】①事業継続の必要性に係る評価

開始当時の背景・これまでの経緯	平成18年4月の区役所・支所改革により、地域の課題は地域で解決できるよう、区民発意と区民参画を基本とし、地域の実情にあった施策を議論し、実行する仕組みが構築されました。その中で、「区長と区政を語る会」も5つの総合支所へ拡大し、地域の特色、課題等をよりの確に反映した政策・施策の形成に活用していくようになりました。		
評価	A 高い	B どちらともいえない	C 低い
評価の着眼点	<p>公益性 (情勢変化により区が実施する意義に変化はないか)</p> <p>◎</p>		
評価の着眼点	<p>今日性 (情勢変化により区民ニーズとの不整合はないか)</p> <p>◎</p>		
①事業継続の必要性	◎		
①事業継続の必要性評価の理由	(歴史的役割を終えていないか、区の関与は必要か、代替可能な事業はないか) 区長が直接区民から広く意見・提案を聴取する場として、また、区民が区長と直接話ができる場の確保として、今後も施策推進に活用していく必要があります。		

【ステップ2】②事業の効果性・③事業の効率性に係る評価

②事業の効果性に係る評価

事業の成果	指標1	参加者数			指標2				指標3			
		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率		当初予定	実績	達成率
	平成29年度	10	11	110.0%	平成29年度				平成29年度			
	平成30年度	10	9	90.0%	平成30年度				平成30年度			
	令和元年度	10	—	—	令和元年度				令和元年度			
指標から見た事業の成果	平成30年度は学生や区内在勤者を中心にさまざまな層の方にご参加いただきました。「みんなでつくる芝浦港南地区」をテーマに、コミュニティ意識を高めるための方法について区長と意見交換を行いました。複数の視点から区民の意見・要望を把握することができたほか、区長から区の施策等について考え方を示すことができました。											
評価	A 高い			B どちらともいえない			C 低い					
②事業の効果性	◎											
②事業の効果性評価の理由	(事業の目的を実現できているか、区民のニーズに応える手段として妥当か) 区民が区長と話すことのできる機会であり、自分の意見や要望を伝えたいという区民ニーズに応えることのできる事業です。											

③事業の効率性に係る評価

予算状況の内訳(千円)												決算状況(千円)	
事業費の状況	年度	当初予算額	一般財源割合	一般財源	国庫支出金	都支出金	その他	流用	補正予算	予算現額	決算額	執行率	
		平成29年度	50	100%	50	0	0	0	0	0	0	50	29
平成30年度	44	100%	44	0	0	0	0	0	0	44	23	52%	
令和元年度	44	100%	44	0	0	0	0	—	—	—	—	—	
事業費から見た事業の状況	決算額については手話翻訳等の経費が未執行でしたが、様々な層の方に参加いただくため予算計上が必要です。												
評価	A 高い			B どちらともいえない			C 低い						
③事業の効率性	◎												
③事業の効率性評価の理由	(費用対効果や受益者負担等の観点から、コストに見合う成果が得られているか) 費用は会議用のお茶代や会議録作成にかかるものなど、必要な最小限なものに限られています。そのなかで区民から広く意見を聞き入れ今後の施策に反映する等コスト以上の成果を得られています。												

【ステップ3】
総合評価

○ 拡充 ● 継続 ○ 改善 ○ 統合 ○ 廃止

本事業に係る所管課の意見	区長が区民から直接意見や要望を聴取できる機会であり、集団広聴の一環として今後も継続すべき事業であると評価します。ただし、参加する区民からは区政全般への意見・要望となりがちであるため、支所単位でのテーマ設定に工夫する必要があります。また、会議録の作成については、これまで詳細な逐語録による議事録を作成していましたが、議事録作成ツール導入による事務執行の改善に伴い、要約筆記により会議録を作成することとします。
総合評価に係る具体的な理由(根拠)と来年度の実施内容(又は廃止後の対応)を記載します。 ・「拡充」：レベルアップ ・「継続」：現状維持 ・「改善」：対象範囲、事業規模、実施方法等の変更(一部廃止、縮小を含む) ・「統合」：他事業と統合	その他、より多くの方々に参加していただくために、幅広い年齢層が参加しやすいテーマ設定、掲示板へのポスター掲出等の周知方法について、検討した上で実施します。全庁的なテーマ(街づくり、環境、高齢者福祉、子育てなど)での開催においては、今後も支援部と連携して開催します。